



令和6年度は、昨年度実施した中学生アンケートや佐賀市部活動地域展開会議での検討結果を踏まえて焦点化した、3つの方向性の具体化に向けて取り組んでいます。

《方向性 1》 学校部活動としての活動量・活動内容の見直し

《方向性 2》 地域型クラブの立ち上げ・運営に関する支援

《方向性 3》 多様なクラブ・スクール活動への生徒参加の円滑化

佐賀市の部活動改革の方向性をまとめたチラシ（PDF）はこちらから



01 部活動地域展開 の国の動向について

部活動改革について、国は令和5年度から令和7年度までの3年間を「**改革推進期間**」として休日の部活動の地域移行に向けた動きを進めてきました。一方で、特に指導者や運営団体、予算、活動場所の確保など課題も多く、全国的になかなか進んでいない状況です。

こうした状況から、国は令和6年8月に「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」を設置し、部活動の地域移行の今後について再検討を始め、令和7年春ごろに最終とりまとめを公表する予定となっています。昨年12月に示された中間とりまとめでは、以下の内容が盛り込まれています。

▶ 次期改革期間：「**改革実行期間**」

（令和8年度～13年度までの6年間）

▶ 「地域移行」という名称→「**地域展開**」に

（地域が連携し、生徒の活動機会を保障するという理念を表すため）

▶ 地域クラブ活動と部活動に関する記載のあり方を検討

（「学習指導要領」の次期改訂時にあわせて）

詳細はこちらから↓



スポーツ庁室伏長官
による解説動画



スポーツ庁
中間とりまとめPDF

02 部活動地域展開 の目的を再確認

佐賀市では、「手段」であるはずの地域移行が「目的」とならないよう、昨年来「**地域展開**」という呼称を用いて改革を進めています。

手段

部活動の地域移行

目的

健全で 持続可能な
「教育環境」「文化・スポーツ環境」を創造する

以下のように、健全で持続可能で環境を整えていくため、現状の部活動との並走期間の中で、関係者が混乱なく活動に参画できるよう上記の3つの方向性に沿った取組を進めているところです。

1 すべての子どもたちにとって健全で持続可能な文化・スポーツ環境が整う



- ・適切な活動時間、休養の設定
- ・多様で主体的な活動
- ・質の高い指導体制
- ・文化・スポーツ活動への参加率の維持・増加



- ・ガイドラインの無視、やりすぎ、ケガの増加
- ・選択肢の削減、受け身的な活動
- ・暴言、体罰、パワハラ的な指導
- ・文化・スポーツ活動の体験格差の拡大

2 教職員がそれぞれの専門性を高め、質の高い学校教育を提供できる環境が整う



- ・教職員が授業準備や学びに時間を取れる
- ・教職員が指導に関して主体的に選択できる



- ・教職員の仕事が増える
- ・望まない教職員が運営や指導せざるを得ない

3 地域と学校が連携・協働した持続可能な活動体制が構築される



- ・受益者、行政、クラブが適切な比率で活動資金を賄う。
- ・多くの関係者（多様な主体）による受入体制が整い、継続できる。



- ・一部に財政的な負担が偏る
- ・運営、指導などの負担を一部の人が背負う
- ・活動が継続できず、クラブ数が減少する

03 トップアスリートに主体的な活動を学ぶ！

今回は、《方向性 1》の“佐賀モデル”（学校部活動の適正化モデル）に先行して取り組んでいる市内5つの中学校で、日々の活動の質的な向上を図るために開催した、SAGA2024国スポに出場された選手やプロバスケットボールチームのコーチ・トレーナーによる練習会の様子を中心に紹介します。

2/1（土）諸富中

軟式野球部、柔道部、剣道部
バスケット部、バレー部



指導者 ※敬称略
・上田直樹（体操）
・許田悠貴（陸上）
・雨田由香（フェンシング）
・齊藤憲司（フェンシング）

●アドバイス

自分はうまくいかないときに、それを審判や指導者、環境のせいにはしないようにしている。そのために自分に矢印を向け、自分で考え、決める習慣を。



2/1（土）芙蓉校中学部

ソフトテニス部



指導者 ※敬称略
・中山 怜（体操）
・山川夏輝（陸上）
（サポートで他2名参加）

●アドバイス

長い時間やれば上手くなるわけではない。どのレベルに到達したいか目標を決める。目標から逆算し、必要なメニューを自分でも考えて取り組んでほしい。

2/8（土）東与賀中

バスケット部、サッカー部
ソフトボール部、卓球部



指導者 ※敬称略
・中山 怜（体操）
・瀬戸口大地（陸上）

●アドバイス

- ・自分の課題を自分でわかって取り組むこと
- ・メニューのレベル設定や休憩時間を調整すること

2/11（土）三瀬校中学部 剣道部

指導者 ※敬称略

・伊藤 心（フェンシング） 齊藤憲司（フェンシング）

●アドバイス

- ・普段のメニューのポイント（何のため？）を再確認し、「振り返り」を大切にすること



2/15（土）川副中、東与賀中、諸富中 バスケット部

指導者 ※敬称略

・水町亮介（バスケット）・高良直輝（バスケット）

●アドバイス

- ・待ち時間も練習。有効活用で効果があがる
- ・部員同士のコミュニケーション・アドバイスを



●参加者の声 （部活動顧問）

今日のように月に1回でもマルチスポーツ（合同体験）の形に取組むことで、シーズンオフに各学校で取り組む新しい形につながるし、顧問にとっても学びの場になる。

●参加者の声 （部活動顧問）

トップアスリートの方々の指導には共通点があった。それは、子どもたちに気づきを与えて、伴走し、成長に導くこと。日々の活動の参考になった。

まず、自分でプレーをさせる

いいプレーの基準を示す

プレーに対して評価（相互評価含む）

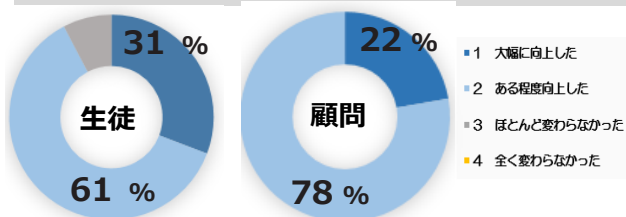
成功をすぐ褒める（価値づけ）

- 失敗に対して、すぐに解決方法を教えない
- 「何がうまくいかなかった」「どうすればよさそう」と問いかけて気づかせる
- 選択肢を与えて、1つの方法を押し付けない

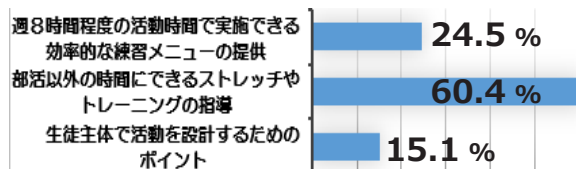
●アンケート結果（一部抜粋） 2/11終了時点

Q.【生徒】【顧問】

指導前後で自分のスキル・知識はどう変化したか？



Q.【生徒】今回の指導で、日々の活動に生かせるのは？



先行モデル校では3月まで練習会を実施します。アンケート結果や子どもたちの声の詳細については、別途地域展開会議にて報告後、HPで公開します。

【発行・お問い合わせ】

佐賀市教育委員会 教育総務課

電話：0952-40-7352

E-mail：kyoiku@city.saga.lg.jp